

地域ニュース

命救う方法学ぶ

小学生が心肺蘇生講習

子供たちにも救える命があることを知ってもらおうと、京都市子ども保健医療相談・事故防止センター(愛称・京あんしんこども館)＝中京区＝で、小学生を対象にした心肺蘇生法の講習会が開かれた。

同センターは、子供の保健医療相談や事故防止を目的に平成16年に設立され、京都第二赤十字病院(上京区)が指定管理者として運営。取り組みの一環として、近隣の市立小学校5、6年を対象に年7～8回の講習会を実施している。

10日にあった講習会には京極小(上京区)の児童27人が参加した。長村敏生センター長は児童らに対し、119番などで救急車が到着するまで全国平均で10分程度かかるほか、心停止から1分ごとに救命率が10%下がっていくことを説

明。命の大切さと思いやりの精神を持つことに加え、胸骨圧迫や人工呼吸、自動体外式除細動器(AED)利用などの重要性を強調した。

その後、学童用の訓練人形を使った講習を実施。児

童らは医師やスタッフの指導を受けながら、人形の胸の中央部分を押し、訓練用のAEDを装着したりするなどして学んでいた。

長村センター長は「子供でも心肺蘇生法を施すことで救える命がある。一人でも多くの人の意識が高まるきっかけになるよう、今後も講習を続けていきたい」と話した。



医師らの指導を受けながら、心肺蘇生法の講習に取り組む京極小の児童ら＝中京区